

【心理学研究科心理学専攻博士前期（専門：臨床心理学）解答例と出題意図】

【解答例】

【問1】

- ① 早期完了
- ② レスポネント条件づけ、古典的条件づけ
- ③ ワーク・エンゲージメント
- ④ 局所論
- ⑤ 因子分析
- ⑥ 脱抑制型対人交流障害
- ⑦ 展望記憶
- ⑧ 脱フュージョン，脱中心化
- ⑨ 知恵
- ⑩ FRI

【問2】（各設問の解答例または出題意図）

- ①（出題意図）以下にあげるような、事例研究・質問紙調査研究・実験研究のそれぞれの特徴を整理して対比的に論述できているかどうか（必ずしもこの通りでなくとも可）を評価する。

事例研究の特徴：データは小数個、典型事例や臨床的支援がテーマとなる事例について時間軸に沿ってその変容過程を多角的に記述していく、変容がどのように生じたのかがテーマとなることが多い（個々のケースへの支援がどのように進み、どのような結果へと至ったのか、そのように至った要因は何か、など）

質問紙調査研究の特徴：質問紙を用いた調査では一度期に大量のデータ（数量データ）が確保される、データ間の比較は比較的容易である、個々人のデータよりも標本集団（もしくは母集団）のデータの傾向の把握に焦点が置かれることが多い、多変量解析等を用いることで多量（多変量）のデータの背景にある種々の数値的構造を把握することが可能になる、など

実験研究の特徴：仮説検証を行うための最も有力な研究方法である、因果関係に関する仮説を検証する際に多く用いられる、原因と推測される条件が要因として投入される、その要因の操作によって結果に変化が生ずるかどうかを検証される、要因は差別化されるがそれ以外の条件についてはできるだけ同一に揃えておくことが重要となる（環境統制）、など

- ②（出題意図）昨今、社会問題化しているいじめに関しては、いじめ防止法に基づく、組織対応、ガイドラインの適用などが主流となっている。その中で、心理職としての専門性を十分に発揮しつつも、組織内や社会的通念を理解した役割を果たすことが重要に

なっている。そうしたことを理解した上で、特にスクールカウンセラーとしてどう役割を果たすかが重要であることを問うている。

- ③（出題意図）応用行動分析学に対する理解を評価することを目的としている。特に、行動面の問題に対する基本的な対処の一つとされる「代替行動分化強化」について問う設問である。「代替行動」については、状況的に不適切な行動の代わりとなる適切な行動であることへの理解があり、「分化強化」については、不適切な行動は強化せずに適切な行動を強化する行動形成の方法であることを理解していることが求められる。また、「代替行動」と「分化強化」について具体例を踏まえて説明できるかどうかを確認している。

- ④（出題意図）学校臨床特有のコンテクストを踏まえた多層的なアセスメント能力と、生徒の主体性を尊重した支援方針の策定を問うものである。生徒の語る「マイナス思考」という主訴の背後にある、思春期特有の発達課題、抑うつや不安症といった精神医学的評価、さらに学級や家庭環境の影響を多角的に検討できるかを問う。対応においては、単なる問題解決の提示に終始せず、まずは受容的・共感的な態度で治療的同盟を築く視点を確認する。その上で、生徒自身のストレンクス（強み）の活用や、スクールカウンセラーとして教職員・保護者とどのように連携するかといった、システムへの介入も含めた包括的な支援モデルを構想できるかを評価したい。学校現場における「見立て」と「関わり」の統合的な理解を問うことが目的である。

（解答例）「マイナス思考」を生徒個人の問題としてのみ捉えず、家庭や学校というシステムの中での機能（周囲の関心を引く、失敗を回避するなど）を検討する。保護者の養育態度や期待、学級内の力動、部活動での人間関係などを多角的に聞き取る。併せて、生徒自身の適応的な側面や趣味、これまでの困難を乗り越えた経験（ストレンクス）に着目し、本人のリソースを掘り起こす。また外在化の技法を用い、「マイナス思考」を本人から切り離すべき対象として扱い、自己効力感を高める。個別面談を通じてコーピングのバリエーションを増やすとともに、コンサルテーションを通じて教職員の生徒に対する理解を深め、教室が本人にとっての居場所となるよう働きかける。生徒の主体性を尊重しつつ、周囲のサポート資源を再構成することで、問題行動の解消だけでなく、生徒自身の心理的な成長と環境への適応を同時に支援する。

- ⑤（出題意図）心理療法の基盤をなすコミュニケーションとしての共感の意義を理解しているかを問う問題。1960年代に、それまで中立性を強調していた心理療法において、クライアント理解にとって重要なものとして、ヒューマニスティックな心理学の文脈で共感の意義を主張した C.Rogers の共感的理解の考え方、ならびに H.Kohut の精神分析的な文脈で精神分析の技法に大きな影響を与えた共感について述べられていることを求めた。

【出題意図】

【問1】

本設問は、受験者の基礎的な心理学専門用語に対する幅広い知識を測ることを目的としている。特に、入学後の講義や実習で円滑な学びを得る為に必要な知識の中から特定の分野に偏らないように設問を設定している。

【問2】

本設問は、特定の心理学のテーマについて深く理解し、それを言語化・文章化する能力があるか測定することを目的としている。特に、入学後の講義や実習において必要なディスカッションスキル、レポート作成スキル、論文作成スキルの素養を評価することに焦点が当てられている。